

衆議院環境委員会ニュース

平成 26. 2. 21 第 186 回国会第 2 号

2 月 21 日（金）、第 2 回の委員会が開かれました。

1 環境の基本施策に関する件

- ・石原環境大臣、北川環境副大臣、井上環境副大臣、牧原環境大臣政務官、浮島環境大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

吉 田 泉君（民主）

- ・政府は、中間貯蔵施設の受け入れ環境を整えば、福島県外で最終処分を行うこと（以下「県外処分」という。）を法制化する旨表明しているが、地元住民からは中間貯蔵施設受け入れの前提として県外処分法制化が必要との声を聞く。現段階で法制化できないのか、環境省に伺いたい。また、「受け入れ環境が整う」とは具体的にどの段階を指すのか、今後の見通しと併せて伺いたい。
- ・福島県が検査した県内の農業用ため池の 3 割以上で底質が 8000 ベクレルを超えており、地元住民から底質除染を求める声があると聞くが、環境省の対応状況を伺いたい。
- ・一般廃棄物処理施設の更新は自治体に多大な財政負担を強いることから、民間のセメント焼成炉の利用拡大が望ましいと考えるが、環境省の検討状況を伺いたい。

河 野 正 美君（維新）

- ・中間貯蔵施設の受け入れ要請のため大熊町、双葉町及び楡葉町を訪問した、石原環境大臣及び井上環境副大臣の所感を伺いたい。
- ・政府内で乱立する汚染水対策組織について、その役割分担を経済産業省に伺いたい。
- ・福島第一原発で昨年発生した汚染水について、東京電力がその濃度の測定を誤っていたとの報道があるが、同社に対する原子力規制庁の今後の対応方針を伺いたい。

百 瀬 智 之君（維新）

- ・我が国の生態系等に悪影響を与えずに順応した外来種の存在に鑑み、外来生物の防除及び駆除を慎重に進める必要性について政府の見解を伺いたい。
- ・農薬の散布による自然環境への影響調査及び国民への周知の必要性について政府の見解を伺いたい。

- ・生物多様性の保全及び外国人観光客の誘致につながる河川再自然化の導入について政府の見解を伺いたい。

山 内 康 一君（みんな）

- ・「地球温暖化対策事業効果算定ガイドブック」は補助金等の環境面のインパクトを計ることができるものであり、これを他省庁等にも普及していく必要があると考えるが、今後の方策について北川環境副大臣に伺いたい。
- ・一部の費用を相手国が負担する有償技術協力のスキームについて、環境分野において検討する必要があると考えるが、牧原環境大臣政務官の見解を伺いたい。

林 宙 紀君（結い）

- ・本年 2 月 14 日の衆議院予算委員会で、宮城県における指定廃棄物の最終処分場候補地選定のための詳細調査に 4 月から入りたいとの答弁があったが、実際にどのように進めるのか、井上環境副大臣の見解を伺いたい。
- ・宮城県において、福島第一原発事故に起因する指定廃棄物や一般廃棄物の処理を進めるためには、大臣自らが宮城県を訪問して説明すべきと考えるが、石原環境大臣の見解を伺いたい。

野 間 健君（無）

- ・新規規制基準に基づく適合性審査が進んでいる原発については、審査チームの枠を超え総力を挙げて審査を行うとの方針によって、残りのプラントの審査に遅れが生じることが懸念されるが、原子力規制庁の認識を伺いたい。
- ・現在、環境省で検討されている水俣病認定基準の通知案においては、過去の毛髪水銀量の確認等、非現実な内容が含まれていると考える。政治的な判断で水俣病認定基準を見直す必要性について、石原環境大臣の見解を伺いたい。

斉藤鉄夫君（公明）

- ・環境分野における我が国の成長産業を見出していくことが重要であるが、環境産業の現状と今後の成長見通しについて伺いたい。
- ・民間資金の環境分野導入に向けた手助けとして、緑の贈与税制度実現に向けた石原環境大臣及び北川環境副大臣の見解と決意を伺いたい。
- ・日本の循環産業を国際的な成長産業にしていく必要があるが、環境産業をどのように育成していくかその方策と戦略を伺いたい。

吉野正芳君（自民）

- ・中間貯蔵施設建設予定地で働く作業員の健康確保のため、同建設予定地の周辺及び同建設で渋滞が予想される国道6号線周辺を除染していく必要があると考えるが環境省の見解を伺いたい。
- ・2月12日の福島県知事の中間貯蔵施設設置に係る要請に対して石原環境大臣はどのように受け止めているのか伺いたい。併せて県外処分法制化に対する環境省の見解を伺いたい。
- ・復興加速化に向けた与党の第3次提言の趣旨から、中間貯蔵施設用地の取得に際しては被災者一人ひとりの実情に合った損失補償を行う必要があると考えるが環境省の見解を伺いたい。